

水辺の小さな自然再生 の社会実装に向けた事例研究

自然環境グループ

リバフロサポートセンター（「小さな自然再生」担当）

主任研究員 和田 彰

研究背景

■ 本研究で着目する 河川環境を取り巻く課題認識

①河川技術 ～河川環境の場づくりの技術～

- 河川環境の目標設定の対象を「**生物の生息・生育・繁殖の場**（瀬淵、ワンド、二次流路、水生植物帯、自然裸地 etc.）」とすることが定まった。しかし、これらの「場」を、動的に変動する河道において、「こうすれば造れます」と自信をもって断言できる河川技術者は少ないのではないか。
- 目標とする河川環境の場を設計できる技術者を全国に増やさない限り、その具現化は難しい。

②社会技術 ～地域合意に基づくボトムアップ型の川づくりの技術～

- 河川環境の目標設定には**地域合意が必須**。目標設定～施工～維持管理までを河川管理者のみで実施することは難しい。
- 地域住民や企業の協力が欠かせない。地域と協働で進めるボトムアップ型の河川・流域管理のノウハウの蓄積し、川づくりの担い手を増やすことが必要。

研究背景

5. 発表のまとめ ～小さな自然再生の大きな可能性～

■ 小さな自然再生の大きな可能性

<河川技術の向上>

●河川……

川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見試しの機会。



河川環境の場づくりの技術向上への貢献

●流域……

多様な主体との協働のノウハウを学ぶ機会。



by ALLの流域治水への貢献



<今年度実施中>

公益財団法人旭酒造記念財団研究助成

『水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究』

昨年度研究発表「小さな自然再生から河川環境を学ぶ」の最後のスライド

研究背景

5. 発表のまとめ ～小さな自然再生の大きな可能性～

■ 小さな自然再生の大きな可能性

<河川技術の向上>

●河川……

川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見試しの機会。



河川環境の場づくりの技術向上への貢献

●流域……

多様な主体との協働のノウハウを学ぶ機会。



by ALLの流域治水への貢献



<今年度実施中>

公益財団法人旭酒造記念財団研究助成

『水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究』

ウェルビー
イング

ネイチャー
ポジティブ

順応的
管理

地域による
きめ細かな
モニタリング

グリーン
インフラ

シビック
プライド

昨年度研究発表「小さな自然再生から河川環境を学ぶ」の最後のスライド

本日の発表内容

水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究

1. はじめに 水辺の小さな自然再生とは？

2. 本研究の目的と方法

3. 研究成果

- 3.1. 小さな自然再生の沿革及び既往研究の整理
- 3.2. 全国の取組み事例の収集・整理
- 3.3. 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化
- 3.4. 小さな自然再生の実践によるノウハウの見試し
- 3.5. 全国取組事例データベースの更新・公開

4. おわりに

1. はじめに ～「小さな自然再生」とは？～

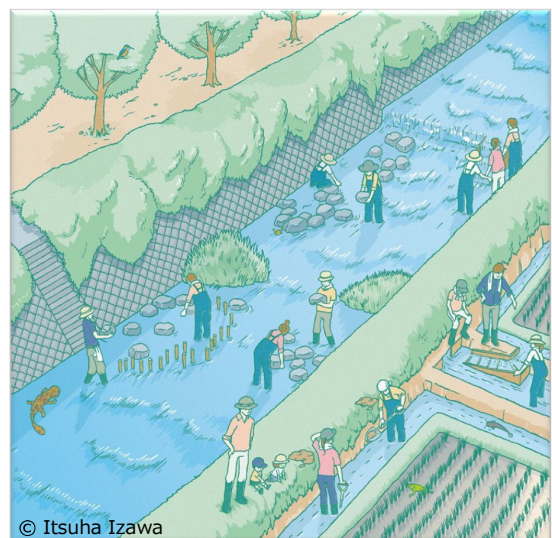
～水辺で取組む みんなで発案・協働する手づくりの自然再生～

【小さな自然再生の定義】

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義。

- ①自己調達できる資金規模であること
- ②多様な主体による参画と協働が可能であること
- ③修復と撤去が容易であること

(2014年：「小さな自然再生」事例集編集委員会より)



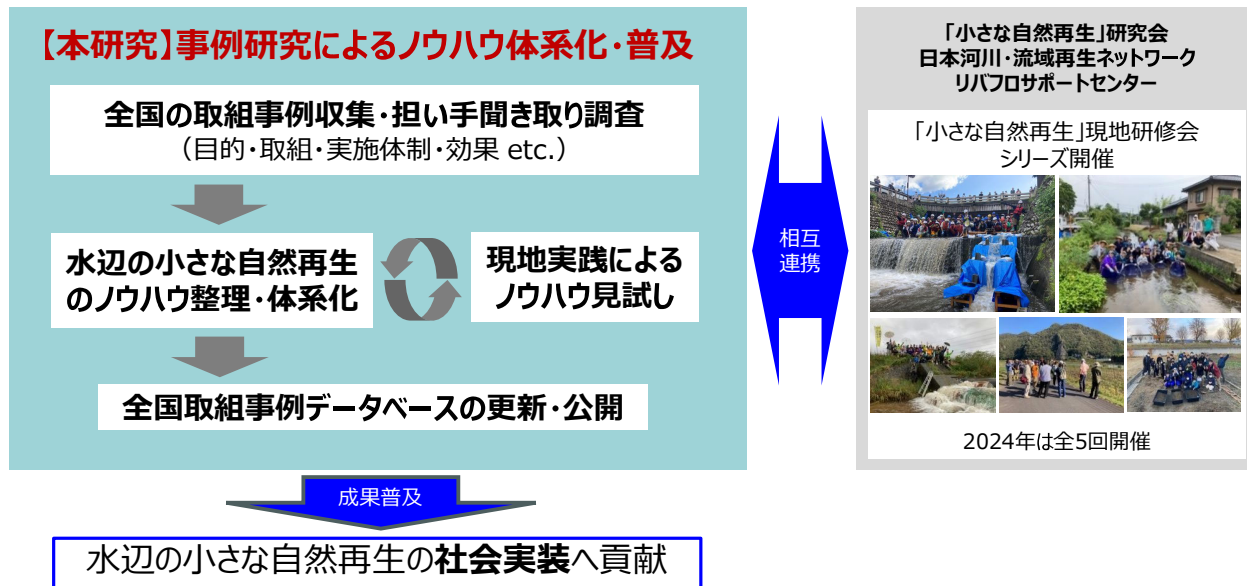
【水辺の小さな自然再生の意義】

- ☐ **地域づくり** : 多様な主体の参加により新たな交流が生まれ地域が活性化
- ☐ **公共事業の補完** : 行政による自然再生のきめ細かいフォローアップ&事業が動き出すまでのつなぎ
- ☐ **環境・生涯教育** : 水の恵みと恐れを実感できる体験の場、自然をルーツとする故郷への愛着醸成
- ☐ **河川技術の向上** : 川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見試しの機会

2. 本研究の目的と方法

【目的】 水辺の小さな自然再生の取組を社会に実装し、多種多様な生物が生育・生息・繁殖できる安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域を創出する。

【方法】 ①事例分析と現地調査による小さな自然再生に必要なノウハウの整理・体系化。
②現地での実践によるノウハウの見直し。
③全国取組事例データベースの更新・公開によるノウハウの普及。



3. 研究成果 ～3.1 小さな自然再生の沿革及び既往研究の整理～

■ 小さな自然再生の沿革

（主な取組みの変遷）



■ 事例情報の整理項目

大分類	項目		データベース 公開対象
位置諸元	河川名	水系	○
		河川名	○
	所在地	都道府県	○
		市町村	○
		緯度経度	○
再生目的（生物）	対象種		○
再生目的 （物理環境）	連続性の回復	魚道（縦方向）	○
		魚道（横方向）	○
	生息・生育・繁殖場の造成	瀬淵	○
		ワンド・たまり	○
		二次流路	○
		水際植生	○
		攪乱	○
		空隙	○
		その他	○

大分類	項目	データベース 公開対象
実施内容	取組概要	○
	取組開始年	○
	実施段階	
	適用工法	○
	使用材料	
実施体制	実施主体	○
	連携主体	○
資金源	活動資金	
評価	効果	○
	課題	
	工夫点	
公開情報	参考情報 (URL)	○
関連資料	旧カルテ (URL)	○
	事例集 (URL)	○
	現地研修会報告書 (URL)	○

■ 事例情報の収集・整理

表 収集事例一覧表（北海道収集事例の一部抜粋）

[illegible]

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

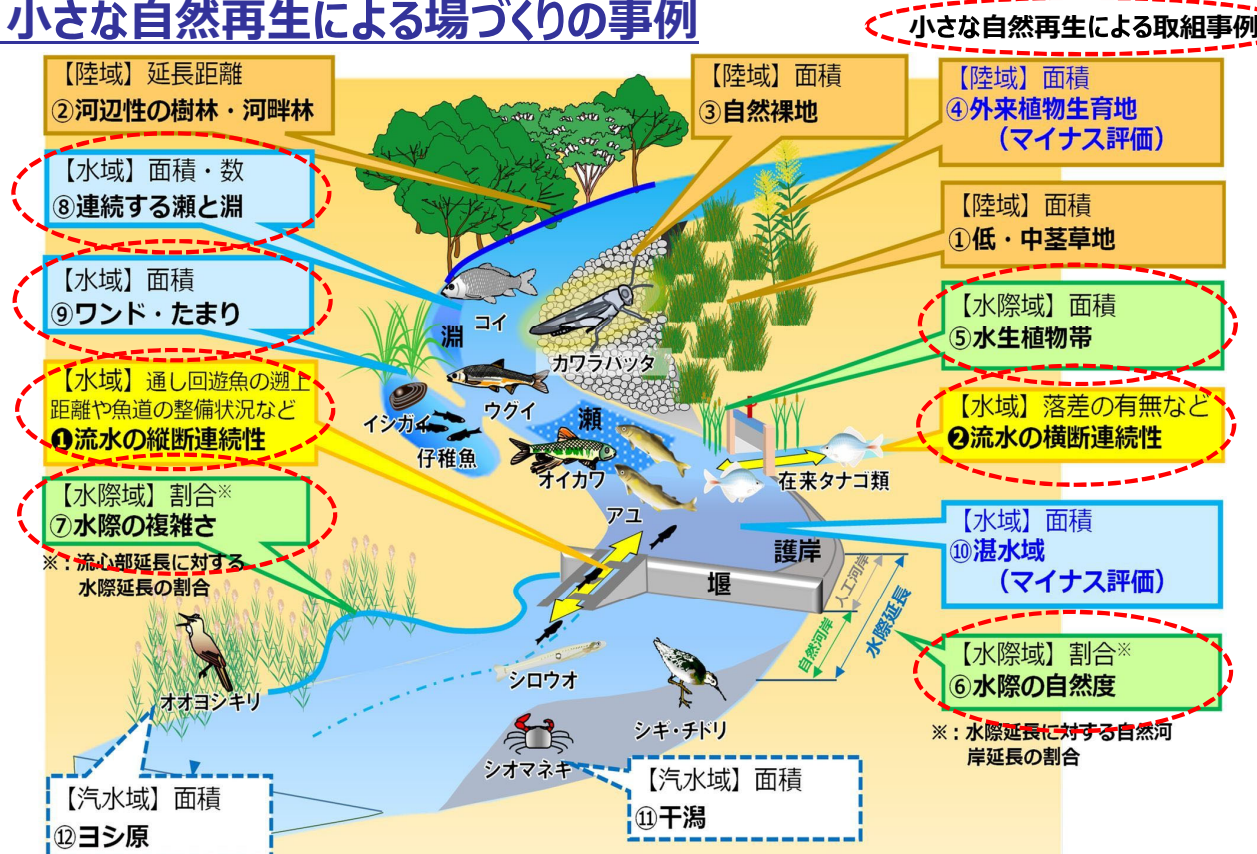
■ 収集事例の分析による特徴整理

表 自然再生の目的の分類（場づくり・対象種）

物理環境（場づくり）					対象種（事例数）
目的	場		箇所数		
連続性の回復	落差解消（縦断方向）		22	34%	85% アユ（7）、サクラマス（5）、ビワマス（4）、イトウ（3）、オショロコマ（2）、サケ（1）、ヤマメ（1）、イワナ（1）、エビ・カニ（1）、魚類全般（4）
	落差解消（横断方向）		4		15% 魚類全般（4）
生息・生育・繁殖場の造成	河川・河道内 その他	瀬淵	23	66%	45% アユ（3）、サケ（3）、オイカワ（2）、カワニナ・ホタル（2）、イワナ（1）、アブラハヤ（1）、アブラボテ（1）、カワムツ（1）、カマツカ（1）、ドジョウ（1）、モズガニ（1）、魚類全般（14）
		ワンド・たまり	3		6% カワニナ・ホタル（1）、魚類全般（2）
		二次流路	3		6% アユ（1）、サケ（1）、魚類全般（2）
		水際植生	4		8% アユ（1）、水生昆虫（1）、魚類全般（4）
		攪乱（産卵場）	10		20% アユ（1）、サケ（3）、イトウ（1）、ビワマス（1）、シロウオ（1）、カワニナ・ホタル（1）、チスジリ（1）、魚類全般（2）
		空隙（隠れ家）	5		10% ウナギ（2）、魚類全般（3）
		湿地再生	1		2% 生物全般（3）
		休耕田再生	2		4%
合計			77	100%	-

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 小さな自然再生による場づくりの事例



出典：水管理・国土保全局「河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き」付属資料，令和5年7月に加筆（リバーフロント研究所・白尾）

3. 研究成果

～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 収集事例の分析による特徴整理

表 適用工法の分類（連続性の回復）

物理環境（場づくり）					適用工法	
目的	場	箇所数				
連続性の回復	落差解消（縦断）	22	34%	85%	簡易魚道	<突出し型・・・落差の下流側に設置> 石積み魚道、土のう積み魚道、木製箱型魚道、鋼製箱型魚道（プールタイプ） 土のう斜路魚道、根固めブロック魚道、木製斜路魚道（水路タイプ） 単管パイプ式U字溝魚道 水辺のこわざ魚道（粗石＋コンクリート） V形断面可搬魚道、竹蛇籠魚道 <下流堰上げ型・・・下流にプールを形成し落差軽減> 堰板型階段式木製魚道、三角水制型木製魚道（プールタイプ） <その他> 引込み型斜路式玉石張り魚道、斜路型鋼製箱型魚道
						既設魚道改良 土砂掻き出し 練石積み側壁魚道
	落差解消（横断）	4		15%	根固めブロック式魚道、突出し型木製斜路魚道（水路タイプ） 単管パイプ式U字溝魚道、流入路開削（手作業）	



3. 研究成果

～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 収集事例の分析による特徴整理

表 適用工法の分類（生息・生育・繁殖場の造成）

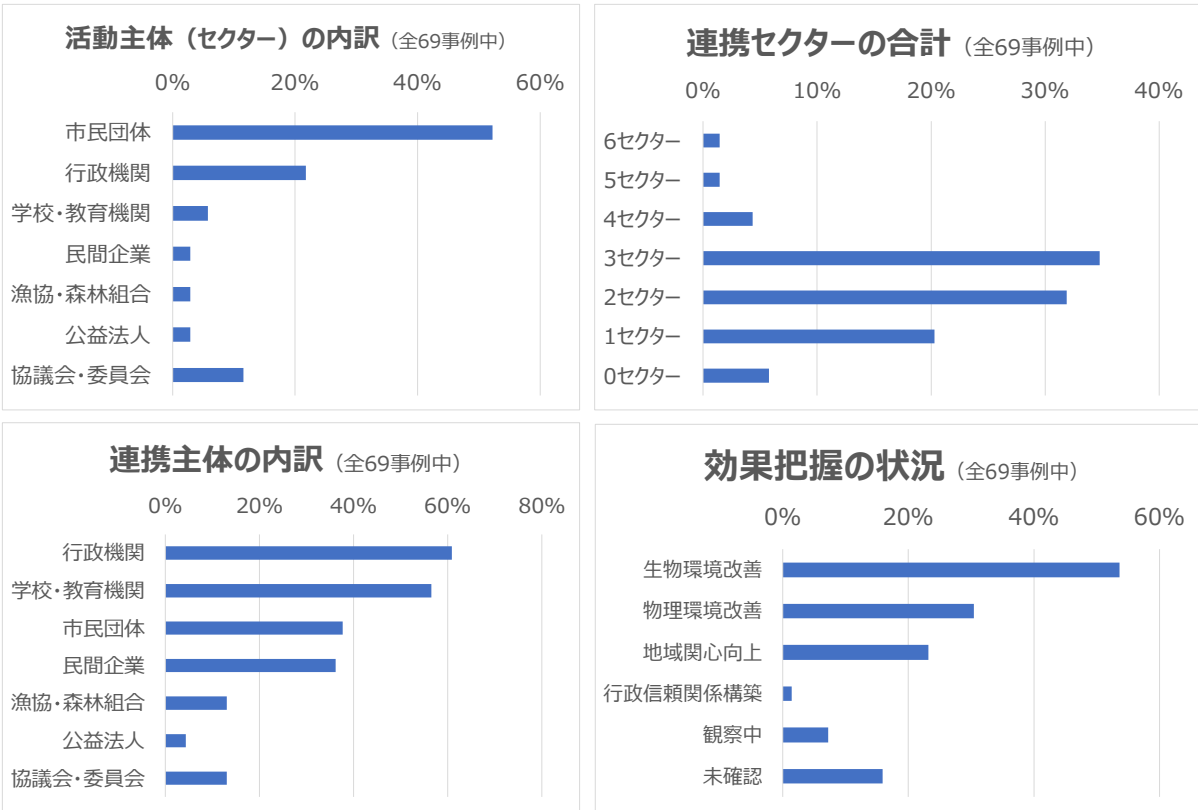
物理環境（場づくり）					適用工法	
目的	場	箇所数				
生息・生育・繁殖場の造成	瀬淵	23	66%	45%	バープエ（石積み、土のう、ブロック積み、袋詰め玉石、コンクリート）、 バープエ（自然石＋木杭）、 バープエ（自然石＋樹脂ネット）、 バープエ（自然石＋樹脂ネット＋木杭） ※バープエの形状は、片岸のみ、またハの字バープエがあり。 間伐材水制	
	河川・河道内	3		6%	掘削（土砂・泥撤去）、バープエによる流向変更、 ハの字バープエ（土のう）による本川堰上げ	
	二次流路	3		6%	掘削（土砂・泥撤去）、バープエ（木製三角枠）、 ※上記ワンド・たまりと同様	
	水際植生	4		8%	寄せ石、植生ロール、 バープエ（石積み、土のう等）による寄り洲形成	
	攪乱（産卵場）	10		20%	河床耕起（手作業 または 小型重機）、砂利投入、 掘削（土砂・泥撤去）、河床連結ブロック撤去	
	空隙（隠れ家）	5		10%	石積み（石組み、石倉）、根固めブロック積、 バープエ（石積み、ブロック積み、袋詰め玉石等） U字溝、竹束	
	その他	1		2%	外来種除去、シードバンクによる在来種再生、 凹凸耕起（手作業）	
	休耕田再生	2		4%		



3. 研究成果

～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 収集事例の分析による特徴整理



3. 研究成果

～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 現地調査によるノウハウの整理

- 現地調査及び現地協働による実施主体からの聴き取り調査
 - (1) 先進事例の実施主体より、小さな自然再生の取組みのノウハウを把握。
 - (2) 今後実施を検討中の主体より、取組に際しての悩みや困り事のニーズを把握。
- 現地調査実施先 ※分類の(1)及び(2)は上記に対応

調査月	分類	調査先	調査協力団体	調査概要
5月	(1)	茨城県・霞ヶ浦	NPO法人	手づくり魚道の維持管理や周辺環境整備活動に参加し意見交換
5月	(2)	滋賀県・大浦川	地域団体、研究機関	ビワマス魚道設置予定地を視察し課題やアイデアを意見交換
6月	(2)	新潟県・古太田川	大学研究室、自治会	古太田川の環境調査等を行い今後の取組みについて意見交換
6月	(2)	長野県・千曲川流域	公立中学校	活動候補地複数を視察し課題や実施体制等を意見交換。
6月	(2)	千葉県・手賀沼	地域団体	現地調査を行い持続的な自然再生活動としていくための意見交換
7月	(1)	新潟県・北ノ又川	地域団体、大学	淵造成現場の経過観察を行い課題や取組み等を意見交換
8月	(2)	兵庫県・千種川	地域団体	既往活動の紹介及び新たな現場の課題と取組みを意見交換
8月	(1)	秋田県・斉内川	民間企業	多様な流れを創出するバープ工の経過観察による技術検証
10月	(2)	静岡県・潤井川	NPO法人	現地を視察し市民や地元企業と連携した活動に向けた意見交換
11月	(1)	滋賀県・家棟川	研究機関	魚道整備や産卵床造成の現地を視察し既往活動の意見交換

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■小さな自然再生に必要なノウハウの体系化

● 新たに「小さな自然再生」をはじめめる際のチェックリスト&ヒントとしてノウハウを体系化

事例分析及び現地調査より得られた小さな自然再生に取り組む際の要検討項目を、新たに小さな自然再生に取り組む担当者の活用を念頭に『チェックリスト』として整理した。

<チェックリストの項目一覧>

- ①【課題発見】 小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？（Why?）
- ②【目標設定】 小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？（What?）
- ③【実施体制】 誰がやりますか？ また、誰とやりますか？（Who? with Whom?）
- ④【場所選定】 どこで小さな自然再生に取り組みますか？ それは何故ですか？（Where?）
- ⑤【実施時期】 いつ取り組みますか？ それは何故ですか？（When?）
- ⑥【適用工法】 どんな技術、工法で取り組みますか？（How?）
- ⑦【材料・工具】 必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？（How?）
- ⑧【資金源】 活動に必要な費用はどう工面しますか？（How?）
- ⑨【関係者調整】 取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？（How?）
- ⑩【効果把握】 どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？（How?）

水辺の小さな自然再生をはじめめる際のチェックリスト

2025年3月（公研）リバーフロント研究所

小さな自然再生の進め方に決まらぬ一歩はあふれぬ。

岸辺でつづらねるようなアイデアを求め、できることが次第に明らか。その結果（自然や地域の状況）を知り、軌道修正しながら、少しずつ進めようと思いつく。このプロセス（仮説・検証・修正）とは、ある程度進めようと思いつく方が進むべき方向。これまでの進捗が明らかになった、小さな自然再生に実際に取り組む際のチェックリストを参考にしてみてください。

①【課題発見】（Why?）

小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？

②【目標設定】（What?）

小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？

③【実施体制】（Who? with Whom?）

誰がやりますか？ また、誰とやりますか？

④【場所選定】（Where?）

どこで小さな自然再生に取り組みますか？ それは何故ですか？

⑤【実施時期】（When?）

いつ取り組みますか？ それは何故ですか？

⑥【適用工法】（How?）

どんな技術、工法で取り組みますか？

⑦【材料・工具】（How?）

必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？

⑧【資金源】（How?）

活動に必要な費用はどう工面しますか？

⑨【関係者調整】（How?）

取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？

⑩【効果把握】（How?）

どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？

公益財団法人 リバーフロント研究所

17

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■小さな自然再生に必要なノウハウの体系化

水辺の小さな自然再生をはじめめる際のチェックリスト & ヒント

①【課題発見】（Why?） 小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？ □ かつてたぐい生息し地域に親しまれていた種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の生息数が激減した。 □ 河川横断構造物（取水堰、落差工等）の落差、流入水路と本川の落差が魚類やエビ・カニ類の移動の障害となっている。 □ 河川改修により流れが直線化・単調化し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場が減少した。 □ 川が本来有していた変動・攪乱の減少や、異常気象による過度な土砂流入により、魚類等の産卵環境が失われている。 □ 湿地環境の陸地化や耕作放棄地が増えて水田環境が減少し、生物多様性が失われつつある。 □ かつての豊かな川文化（地域と川の密接な関係）が失われることで、地域の賑わいや地域防災力も失われつつある。 etc.	⑥【適用工法】（How?） どんな技術、工法で取り組みますか？ （連続性の回復：魚道） □ 縦断方向魚道では、石積みや土の積み、木製や鋼製の箱型、木製や土のうの斜路型、水辺のこぼれ、下流からプールを形成し落差を軽減する下流堰上げ型などがある。 □ 横断方向魚道では、掘削ブロック式や単管パイプがある。 □ 既設魚道の改良（再生）も連続性回復の重要な取組み。 （生息・生育・繁殖場の造成） □ 瀬淵やワンド、二次水路づくりではバーク工が多く適用され、石積み、土のう、ブロック、コンクリート、複合材など様々なタイプがある。 □ 掘削、寄せ石、河床耕起、砂利投入、U字溝など既製品設置、竹束など人工でできる工法がある。 □ 外来種除去やシードバンクによる在来種再生も重要。
②【目標設定】（What?） 小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？ □ シンボル種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の復活を目標に掲げ、地域の仲間を募りながら活動を展開。 □ 落差を解消することで上下流や横断方向の連続性を再生し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場を上流域へ増やす。 □ 瀬淵やワンド、二次水路や水際植生が繁茂する寄り洲等の多様な場を、流れの多様性を創出する。 □ かつての川の自然の営みや湿地環境の劣化を、人力でアシストしてシンボル種の産卵環境や生息・生育環境を手助けする。 □ 小さな自然再生を活用して地域住民と川とのつながりを復活させ、川と人と自然の関係を再構築する。 etc.	⑦【材料・工具】（How?） 必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？ （材料・工具・調達方法） □ 現場にある地産地消の材料（砂利等）、河川工事で余った材料や間伐材の有効利用を最優先に考える。 □ 河川内に外から資材を持ち込む場合には河川管理者の許可取得が必要。 □ 壊れても、流れても下流に悪影響を与えない材料の選定を。土のうは生分解性など、脱プラスチック素材の使用も要考慮。 □ 工具は、地元建設会社や農家など、連携する仲間から持ち寄ることが望ましい。工事の序にコンボで揃ってもらうなどもあり。
③【実施体制】（Who? with Whom?） 誰がやりますか？ また、誰とやりますか？ （誰が?） □ 活動主体となる団体は、市民団体、行政機関、学校・教育機関、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順である。 □ 協議会や委員会を設置して取組む事例もある。 etc. （誰と?） □ 連携先は、行政機関、学校・教育機関、市民団体、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順であり、連携する目的（手続き簡素化、専門性獲得、資金確保 etc.）により連携先も異なる。 □ 上記の複数のセクターと連携するケースが7割以上ある。 etc.	⑧【資金源】（How?） 活動に必要な費用はどう工面しますか？ □ 活動主体メンバーの自己資金でできることもたくさんある。まずは自己調達できる資金でできることから始めるのが小さな自然再生。（小さな自然再生の3条件の一つは「自己調達できる資金規模であること」） □ 助成金、クラウドファンディング、地元行政からの補助金、河川管理者からの支援、企業からの寄付、賛同者の投資（例：東近江版SIB）など、活動に必要な外部資金の財源は様々。多くの事例で、様々な財源を掛け合わせ、かき集めながら活動を展開。
④【場所選定】（Where?） どこで小さな自然再生に取り組みますか？ それは何故ですか？ □ 落差など課題となっている場所、またはその下流部で取組む。（魚道づくりの多くはこのケース） □ 生物の生息・生育・繁殖の観点から効果的な場所を選定する。（川の営みや生物の営みを読む、専門家の指導が必要） □ 作業しやすい、進捗の早い、安全性、安全管理面などから場所を選定する。 □ 水辺の楽校や小中学校傍など、活動主体のアクセス性から活動場所を選定する。（環境教育等に主眼が置かれる場合など） □ 地域住民の目に触れやすい、シンボリックなスポットを選定する。（賑わい創出等のまちづくりの主眼が置かれる場合など） etc.	⑨【関係者調整】（How?） 取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？ □ 河川には河川管理者が、横断構造物には施設所有者が、水路などにも土地改良区など利水管理者が存在し、取組みに際しては管理者の合意が大前提となる。 □ 利害関係者（漁業関係者、下流での利水者、工事業等）との丁寧な調整も不可欠。 □ 上記関係者から応援される、感謝される取組みとすることが活動計画に際しては重要。河川管理者や地元行政との良好な関係構築のために、河川協力団体やアダプト制度への登録している活動主体も多く存在する。
⑤【実施時期】（When?） いつ取り組みますか？ それは何故ですか？ □ 対象とする生物の生活史を踏まえ、適上時期や産卵時期等を考慮した相応しい時期に取組む。 □ 利害関係者に迷惑をかけない時期（利水者、漁業者、工事業等々）に取組む。 □ 出水期（洪水シーズン）、猛暑期、極寒期などを避けた作業性を優先した時期に取組む。 □ 実施主体や連携主体関係者の集まりやすさの観点から実施時期を設定する。（関連イベントとのコラボ企画など）	⑩【効果把握】（How?） どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？ □ 取組後の効果の測定を目的に、生物環境のモニタリング調査、物理環境の変化の観察、また地域の関心向上を図るためのアンケート調査などが実施されている。 □ 取組前の現状の環境把握を含め、効果の把握には専門家のサポートが必要となるため、活動主体メンバーとして専門家が参加したり、専門家を有する組織と連携して取組むなど工夫が行われている。

■リバーサポートセンター「小さな自然再生サポート」ページ内で公開：<https://www.rfc.or.jp/supportcenter04.html>

公益財団法人 リバーフロント研究所

18

9

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 小さな自然再生に必要なノウハウの体系化

水辺の小さな自然再生をはじめる際のチェックリスト & ヒント (1/3)

①【課題発見】（Why?） 小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？	
☐ かつてたくさん生息し地域に親しまれていた種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の生息数が激減した。 ☐ 河川横断構造物（取水堰、落差工等）の落差、流入水路と本川の落差が魚類やエビ・カニ類の移動の障害となっている。 ☐ 河川改修により流れが直線化・単調化し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場が減ってしまった。 ☐ 川が本来有していた変動・攪乱の減少や、異常気象による過度な土砂流入により、魚類等の産卵環境が失われている。 ☐ 湿地環境の陸地化や耕作放棄地が増えて水田環境が減り、地域の水場が減少し、生物多様性が失われつつある。 ☐ かつての豊かな川文化（地域と川の密接な関係）が失われることで、地域の賑わいや地域防災力も失われつつある。 etc.	
②【目標設定】（What?） 小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？	
☐ シンボル種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の復活を目標に掲げ、地域の仲間を募りながら活動を展開。 ☐ 落差を解消することで上下流や横断方向の連続性を再生し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場を上流域へ増やす。 ☐ 瀬淵やワンド、二次流路や水際植生が繁茂する寄り洲等の多様な場を、流れの多様性を創出する。 ☐ かつての川の自然の営みや湿地環境の劣化を、人力でアシストしてシンボル種の産卵環境や生息・生育環境を手助ける。 ☐ 小さな自然再生を活用して地域住民と川とのつながりを復活させ、川と人と自然の関係性を再構築する。 etc.	
③【実施体制】（Who? with Whom?） 誰がやりますか？ また、誰とやりますか？	
（誰が？） ☐ 活動主体となる団体は、市民団体、行政機関、学校・教育機関、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順である。 ☐ 協議会や委員会を設置して取組む事例もある。 etc.	（誰と？） ☐ 連携先は、行政機関、学校・教育機関、市民団体、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順であり、連携する目的（手続き簡素化、専門性獲得、資金確保 etc.）により連携先も異なる。 ☐ 上記の複数のセクターと連携するケースが7割以上ある。 etc.

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 小さな自然再生に必要なノウハウの体系化

水辺の小さな自然再生をはじめる際のチェックリスト & ヒント (2/3)

④【場所選定】（Where?） どこで小さな自然再生に取組みますか？ それは何故ですか？	
☐ 落差など課題となっている場所、またはその下流部で取組む。（魚道づくりの多くはこのケース） ☐ 生物の生息・生育・繁殖の観点から効果的な場所を選定する。（川の営みや生物の営みを読み、専門家の指導が必要） ☐ 作業しやすさ、造ったものの壊れにくさ、アクセス性、安全管理面などから場所を選定する。 ☐ 水辺の楽校や小中学校傍など、活動主体のアクセス性から活動場所を選定する。（環境教育等に主眼が置かれる場合など） ☐ 地域住民の目に触れやすい、シンボリックなスポットを選定する。（賑わい創出等のまちづくりに主眼が置かれる場合など） etc.	
⑤【実施時期】（When?） いつ取組みますか？ それは何故ですか？	
☐ 対象とする生物の生活史を踏まえ、遡上時期や産卵時期等を考慮した相応しい時期に取組む。 ☐ 利害関係者に迷惑をかけない時期（利水者、漁業者、工事業者等々）に取組む。 ☐ 出水期（洪水シーズン）、猛暑期、極寒期などを避けた作業性を優先した時期に取組む。 ☐ 実施主体や連携主体関係者の集まりやすさの観点から実施時期を設定する。（関連イベントとのコラボ企画など）	
⑥【適用工法】（How?） どんな技術、工法で取組みますか？	
（連続性の回復：魚道） ☐ 縦断方向魚道では、石積みや土のう積み、木製や鋼製の箱型、木製や土のうの斜路型、水辺のこわざ、下流からプールを形成し落差を軽減する下流堰上げ型などがある。 ☐ 横断方向魚道では、根固めブロック式や単管パイプがある。 ☐ 既設魚道の改良（再生）も連続性回復の重要な取組み。	（生息・生育・繁殖場の造成） ☐ 瀬淵やワンド、二次流路づくりではバープ工が多く適用され、石積み、土のう、ブロック、コンクリート、複合材など様々なタイプがある。 ☐ 掘削、寄せ石、河床耕起、砂利投入、U字溝など既製品設置、竹束など人力のできる工法がある。 ☐ 外来種除去やシードバンクによる在来種再生も重要。

3. 研究成果 ～3.3 事例分析及び現地調査によるノウハウの整理及び体系化～

■ 小さな自然再生に必要なノウハウの体系化

水辺の小さな自然再生をはじめる際のチェックリスト & ヒント (3/3)

⑦【材料・工具】（How?） 必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？ ☐ 現場にある地産地消の材料（砂利等）、河川工事で余った材料や間伐材の有効利用を最優先に考える。 ☐ 河川内に外から資材を持ち込む場合には河川管理者の許可取得が必要。 ☐ 壊れても、流されても下流に悪影響を与えない材料の選定を。土のうは生分解性など、脱プラスチック素材の使用も要考慮。 ☐ 工具は、地元建設会社や農家など、連携する仲間から持ち寄ることが望ましい。工事の序にユンボで掘ってもらうなどもあり。
⑧【資金源】（How?） 活動に必要な費用はどう工面しますか？ ☐ 活動主体メンバーの自己資金でできることもたくさんある。まずは自己調達できる資金でできることから始めるのが小さな自然再生。（小さな自然再生の3条件の一つは「自己調達できる資金規模であること」） ☐ 助成金、クラウドファンディング、地元行政からの補助金、河川管理者からの支援、企業からの寄付、賛同者の投資（例：東近江版SIB）など、活動に必要な外部資金の財源は様々。多くの事例で、様々な財源を掛け合わせ、かき集めながら活動を展開。
⑨【関係者調整】（How?） 取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？ ☐ 河川には河川管理者が、横断構造物には施設所有者が、水路などにも土地改良区など利水管理者が存在し、取組みに際しては管理者の合意が大前提となる。 ☐ 利害関係者（漁業関係者、下流での利水者、工事業者等）との丁寧な調整も不可欠。 ☐ 上記関係者から応援される、感謝される取組みとすることが活動計画に際しては重要。河川管理者や地元行政との良好な関係構築のために、河川協力団体やアダプト制度への登録している活動主体も多く存在する。
⑩【効果把握】（How?） どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？ ☐ 取組後の効果の測定を目的に、生物環境のモニタリング調査、物理環境の変化の観察、また地域の関心向上を図るためのアンケート調査などが実施されている。 ☐ 取組前の現状の環境把握を含め、効果の把握には専門家のサポートが必要となるため、活動主体メンバーとして専門家が参加したり、専門家を有する組織と連携して取組むなど工夫が行われている。

3. 研究成果 ～3.4 小さな自然再生の実践によるノウハウの見直し～

■ 実践現場の概要

● ノウハウの検証を目的に島田川水系東川で小さな自然再生を実践

- ☐ 河川名： 島田川水系東川（河川延長：14.6km）
- ☐ 実践場所： （株）獺祭 本社蔵前（久杉橋の上下流）
- ☐ 河川管理者： 山口県（二級河川）
- ☐ 近年の災害： 2018年7月豪雨（梅雨前線及び台風7号）
⇒総雨量400mmを超え、酒蔵、周北小学校校庭、久杉橋などが被災
- ☐ 平均河床勾配： 約1/50（国土地理院地形図による測定）



久杉橋上流



久杉橋下流



周北小学校横

3. 研究成果 ～3.4 小さな自然再生の実践によるノウハウの見直し～

■実践の企画・準備

□2024年6月15日： 実践箇所の上下流踏査

⇒東川の物理環境を把握するための上下流踏査



□2024年9月10日： 実践箇所の合同調査・企画会議

⇒東川の生物環境を把握するための簡易生物調査

⇒目的、実施時期、プログラム、準備等の企画調整会議



■2018年豪雨以前のようにたくさんのホタルが舞う川に戻そう！

■廃校となる周北小学校の子どもたちに川の魅力を伝えよう！

■東川との関りを通じて、酒造りと水環境の関係性を自分事として理解しよう！（株）獺祭職員及び周北小学校へ参加を呼び掛ける案内チラシ

旭酒造本社蔵横を流れる東川
「小さな自然再生」勉強会
～西日本豪雨前のいきもののにぎわいを取り戻そう～

開催日
令和6年10月22日（火）
※少雨決行、予備日：10月30日（水）

【開催趣旨】 2018年7月の西日本豪雨では、旭酒造本社蔵の横を流れる東川の上流で土砂崩れが発生し、この地区にも大量の土砂が押し寄せ大きな被害を受けました。川は私たちに恐れと悲しみをもたらしますが、今回の勉強会では、川の恵みに賛同し、東川の生きものを観察するとともに、ホタルや魚を更に殖やしていくための工夫を学びあいます。私たちが訪れる際にも、豊かな水、そして正常な水環境は欠かせません。かつての賑わいがたくさん残っている東川を夢見て、西日本豪雨前のいきもののにぎわいをみんなで取り戻してみませんか？

開催日時 令和6年10月22日（火） 9:00～12:00 ※予備日：10月30日（水）
集合場所 山口県岩国市周東町新越2167-4 旭酒造本社蔵
参加者 岩国市立周北小学校の生徒と教員、旭酒造株式会社の職員
講師 滋賀県立大学環境科学部 瀬教授、NPO法人川塾 塩崎代表（ベベ）
参加者 25名程度
持ち物 帽子、作業用手袋、雨具（カッパ）、着替え
プログラム ※主催者側で行事保険に加入いたします。

（9:00）集合、着替え <運営・進行：公益財団法人リバーフロント研究所>
（9:30～11:00）東川のいきものを観察しよう
（11:00～12:00）小さな自然再生を試してみよう
ホタルや魚とのかつてのつながりを増やすための仕組みづくり、小魚のゆびがくづりなどを見学します
（12:00）閉会

※本行事は、一般財団法人旭酒造記念財団研究助成「水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究」の一環で開催致します。
主催：旭酒造株式会社 製造部 イノベーション研究室、公益財団法人リバーフロント研究所
協力：滋賀県立大学 環境科学部 瀬研究室、NPO法人川塾

3. 研究成果 ～3.4 小さな自然再生の実践によるノウハウの見直し～

■実践の企画・準備

●主催者要望等を踏まえたチェックリスト活用による企画検討

①【課題発見】（Why?） 小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？ ●東川には数十年前はたくさんの魚がいて、地域の子どもの遊び場であった。 川遊びを通じて川の恵みと怖さを学んできたが、最近はその機会が少なくなっている。 ●2018年7月豪雨以降、ホタルが激減してしまった。（幼虫が下流に流れた？）	⑥【適用工法】（How?） どんな技術、工法で取組めますか？ ●ホタルの幼虫が育まれる河岸の環境を増やすことを目的に、河岸に寄り添うの形成を促す 自然石（河床の礫） による バース工 を仮設置する。 （川の中の石を並び替えるだけで川の流れが変化すること、手作業でも生き物を増やす小さな工夫ができることを学ぶ。）
②【目標設定】（What?） 小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？ ●2018年7月豪雨以前のようにたくさんのホタルが舞う東川に戻りたい。 ●今年度で廃校となる岩国市立周北小学校の子どもたちに川で遊び学ぶ機会を提供し、これからも川との関わりを持つきっかけづくりをしたい。 ●旭酒造蔵人が酒蔵前を流れる東川の自然環境を知り、より良い環境づくりに関わることを通じて、酒造りと水環境の関係を自分事として理解してもらう。	⑦【材料・工具】（How?） 必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？ ●材料は河床（川底）にある自然石（礫）を使用する。 ●工具は不要。（人力で運搬、配置換え）
③【実施体制】（Who? with Whom?） 誰がやりますか？ また、誰とやりますか？ ●開催主体は旭酒造イノベーション研究部の職員。 ●活動主体は旭酒造蔵人（職員）。 ●連携先は岩国市立周北小学校の全生徒と教員。 ●専門的サポートは、（公財）リバーフロント研究所、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科（瀬研究室）、NPO法人川塾	⑧【資金源】（How?） 活動に必要な費用はどう工面しますか？ ●自然観察会の備品（たも網、水槽、救命道具、胴長等）は研究助成金を一部活用して準備する。
④【場所選定】（Where?） どこで小さな自然再生に取組めますか？ それは何故ですか？ ●酒蔵前の島田川水系・東川にて実践する。 ●灯台下暗し。酒蔵目の前の自然環境を学ぶことで水環境との距離を縮めるため。	⑨【関係者調整】（How?） 取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？ ●河川管理者である山口県河川課に本活動の趣旨と取組概要を事前に連絡。 ●今後の連携に向け、山口大学大学院創成科学研究科（流域環境学研究室）に事前共有。 ●連携する岩国市立周北小学校と急な事前調整を行う。 ●近隣住民に活動を事前周知する。
⑤【実施時期】（When?） いつ取組めますか？ それは何故ですか？ ●非出水期、かつ寒さが厳しくなる前の10月下旬に実践する。	⑩【効果把握】（How?） どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？ ●実践後、生物環境（カワナ、ホタル幼虫、ホタル等）及び物理環境（バース工破損状況、寄り添い形成状況等）を旭酒造イノベーション研究室が観察する。（リバーフロント研究所がフォローアップサポ-

3. 研究成果 ～3.4 小さな自然再生の実践によるノウハウの見直し～

■小さな自然再生の実践（ノウハウの見直し）

□2024年10月22日： 東川の生きもの観察会&バープエづくり（獺祭製造部14名、小学校8名）

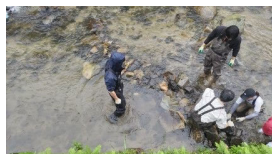


3. 研究成果 ～3.4 小さな自然再生の実践によるノウハウの見直し～

■小さな自然再生のモニタリング（経過観察）とこれから

□2024年11月2日： 出水でバープエが流失

⇒東川・川上水位観測所で80cmの水位上昇が観測された。



2024年10月22日設置時（撮影：リバーフロント研究所）

2024年11月8日（撮影：（株）獺祭製造部イノベーション研究室）

□2025年6月22日： （株）獺祭本社において研究成果報告

⇒小さな自然再生の実践に参加した（株）獺祭職員を代表して、製造部イノベーション研究室・植月主任より感想を頂く。



私たち獺祭の製造社員は文字通り365日24時間、蔵で酒造りに勤しんでいます。

しかし、蔵に閉じこもって酒造りばかりしていると、我々の事業活動が周囲の自然環境や地域社会の中に成り立っているという当たり前の意識が希薄になっておりました。その様な中で、本活動を通じた地域住民との東川でのフィールドワークは、企業の在り方を見つめ直す有意義な学びの場となりました。

また、日本酒の原料の半分以上は水であり、獺祭の品質は使用する水によって左右されるといっても過言ではありません。

本活動を通して、私たちも水辺の小さな自然再生技術を身につけましたので、今後は酒造りだけでなく、「水造り」にまで目を向けて、皆様に美味しい獺祭を届けたいと思います。

この度は大変貴重な機会を賜り、誠にありがとうございました。

3. 研究成果 ～3.5 全国取組事例データベースの更新・公開～

■データベースに掲載する事例概要カルテの作成

- 全国の先進事例を紹介するデータベース用の「事例概要カルテ」を新たに作成（全69事例）

水辺の小さな自然再生 事例データベース				事例番号	1HK01		地域	北海道		記入年月	2025年3月							
事例名称				サケ科魚類の自然遡上環境改善のための木組斜路魚道づくり														
位置情報				都道府県名	北海道		市町村名	斜里町		緯度経度	44.106362, 145.078362		水系名	岩尾別川		河川名	岩尾別川	
取組概要				森林の生物多様性を高めることを目的に、落差2m、幅7mの落差工に木製簡易魚道を設置し、サケ科魚類の自然遡上環境の改善を図った。ガバメントクラウドファンディングも活用して資金を調達し、公募のボランティアが魚道製作を担った。														
再生目的				生物環境	対象種	オショロコマ、サクラマス												
				物理環境	連続性回復	魚道（縦断）	○		魚道（横断）	-								
					生息・生育・繁殖場造成	瀬淵	-		フンド・たまり	-								
					二次流路	-		水際植生	-									
				攪乱	-		空隙	-										
その他				-														
開始年				2021		工法	突出し型木製斜路魚道（水路タイプ）											
実施体制				実施主体	公益財団法人知床財団													
				連携者	斜里町、環境省、斜里高校生、公募ボランティア、北海道技術コンサルタント、知床博物館、東京農業大学													
効果				2023年より知床博物館と東京農業大学との協働で魚類の長期モニタリング調査を開始→効果検証中														
関連資料URL				旧カルテ	-													
				事例集記事	-													
				現地研修会報告書	-													
参考情報URL				https://note.com/100m2trust/n/nd24baca60425 https://note.com/100m2trust/n/nd24baca60425 https://www.nhk.jp/p/ts/BG3WGGKZWZV/episode/ts/7Y18RXNYXP/ https://shiretokodata-center.env.go.jp/data/meeting/kasen_ap/r05/kasemap_R0501_1_shiry04-4.pdf														

本表は、公開情報及び関係者ヒアリングに基づき作成したものです。誤った情報、修正・更新を要する情報、新たに追加したい事例等がございましたら、（公財）リバーフロント研究所・リバーサポートセンター（担当：和田彰）までお知らせください。 Email: supportcenter@rfc.orc.jp

公益財団法人
リバーフロント研究所

3. 研究成果 ～3.5 全国取組事例データベースの更新・公開～

■データベースの更新・公開

- 本研究で整理した全69事例をデータベースに追加・更新（google地図からの検索ページ）

小さな自然再生の事例（地図から検索）：69か所



URL: <http://www.collabo-river.jp/>

3. 研究成果 ～3.5 全国取組事例データベースの更新・公開～

■データベースの更新・公開

- 本研究で整理した全69事例をデータベースに追加・更新（地域と目的からの検索ページ）



事例紹介
HOME / 事例紹介



サケ科魚類の自然遡上環境改善のための木組斜路魚道づくり

森林の生物多様性を高めることを目的に、落差2m、幅7mの落差工に木製階梯魚道を設置し、サケ科魚類の自然遡上環境の改善を図った。ガバメントクラウドファンディングも活用して資金を調達し、公募のボランティアが魚道製作を担った...

北海道 / 岩尾別川



単調な直線区間でのパープエによるサケの自然産卵床づくり (1)

サケの自然産卵による漁業資源の増加を目的に、均一な浅い瀬が直線的に続く区間において、地元の若手漁業者を中心とする協議会メンバーにより産卵環境を改善するためのパープエを複数基設置した。パープエ設置後に連続する瀬淵が形成さ...

北海道 / 伊奈川



単調な直線区間でのパープエによるサケの自然産卵床づくり (2)

サケの自然産卵による漁業資源の増加を目的に、均一な浅い瀬が直線的に続く区間において、地元の若手漁業者を中心とする協議会メンバーにより産卵環境を改善するためのパープエを複数基設置した。パープエ設置後に連続する瀬淵が形成さ...

北海道 / シュタ川



単調な直線区間でのパープエによるサケの自然産卵床づくり (3)

サケの自然産卵による漁業資源の増加を目的に、均一な浅い瀬が直線的に続く区間において、産卵環境を改善するためのパープエを複数基設置した。パープエ設置後に連続する瀬淵が形成され、産卵床の増加が確認された。

北海道 / クラップ川

地域から探す

- ▶ 北海道 (16)
- ▶ 東北 (1)
- ▶ 関東 (8)
- ▶ 北陸 (4)
- ▶ 中部 (7)
- ▶ 近畿 (23)
- ▶ 中国 (4)
- ▶ 四国 (3)
- ▶ 九州 (3)

再生の対象から探す

- ▶ 連続性の回復（縦方向・魚道） (21)
- ▶ 連続性の回復（横方向・魚道） (5)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（瀬淵） (25)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（ワンド・たまり） (3)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（二次流路） (3)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（水際緩衝） (4)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（横断） (9)
- ▶ 生息・生育・繁殖場の造成（空隙） (4)

URL: <http://www.collabo-river.jp/works/>

4. おわりに

■水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた今後の展開

本研究を踏まえた今後の展開を以下に整理する。

1. 蓄積されてきた全国の実験（ノウハウ）を共有する仕組みの強化

全国で蓄積された「課題発見～目標設定～実施体制構築～工法選択～資金確保～関係者調整～効果把握」までの一連のプロセスのノウハウを新たな担い手が共有できるよう、『小さな自然再生の担い手のネットワーク強化』及び『支援ツールの充実化』に取り組んでいく。

2. 小規模技術を習得するための指南書の整備

様々な工法が適用されているが、人や資金のリソースが限られた中でもできるだけ壊れにくく期待した効果を発揮するモノづくりの技術は確立されていない。より工学や生態学に根差した取組みとしていくため、『小さな自然再生で適用可能な小規模技術の指南書の整備』に取り組んでいく。

3. 担い手の支援体制の強化

困った時には気軽に相談できる駆け込み寺となる『小さな自然再生の支援窓口の強化』に取り組んでいく。

※リバロサポートセンター



「河川環境の場づくりの技術向上」及び「by ALLの流域治水の社会技術向上」への貢献

謝 辞



本研究は、公益財団法人旭酒造記念財団の調査研究助成事業「水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究」の一環で実施致しました。

このような事例分析研究の貴重な機会とご支援を頂きました公益財団法人旭酒造記念財団、また聞き取り調査にご協力頂きました関係者皆様に感謝申し上げます。

お知らせ① ～ 小さな自然再生のイベント紹介～

第29回 静岡県静岡市清水区・庵原川
「小さな自然再生」現地研修会
 ～ 石倉カゴでつながる地域連携による多自然鰻川づくり～

開催日 令和7年10月5日(日) 9:00～16:30 (8:30～受付開始)

会場 静岡県静岡市清水区横砂本町＜座学：横砂自治会館 / 現地：庵原川河口一葉橋＞

対象 庵原（いはら）川での小さな自然再生に興味・関心のある方々 ※年齢：中学生以上

定員 50名（先着順） ※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。

参加費 無料

持ち物 雨具、靴、作業用手袋、昼食（弁当を準備した可 ※要面談）

プログラム

※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。
 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

【開催趣旨】 石倉カゴを護岸材料にエホナガキ等の生育環境保全活動を始めて約10年。参加した多くの子ども達が巣立っていきま。これからも継続して子ども達や若い方、市民、行政、企業等を巻き込み、更なる流域展開や他の河川への横展開を図ることを目標に、参加者みんなで石倉カゴ調査を体験し、実施に向けたアイデアを出し合います。

【開催要綱】

(9:00～9:20) 開会 及び プログラム説明 @横砂自治会館
 - 開会挨拶（伏見直樹：いはらの川再生PJ会 代表）
 - 本日のプログラム説明（和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）

(9:20-12:30) 小さな自然再生の実践 @庵原川河口一葉橋 ※午膳時刻10:00
 石倉モニタリング調査及び石倉カゴの設置作業に参加し、エホナガキと庵原川の生物の生息・生育の場づくりを学びます。
 ※現地指導講師：いはらの川再生PJ会 会員、白尾薫宏（公益財団法人 リバーフロント研究所）

(12:30～13:30) 昼食 @横砂自治会館

(13:30～16:30) 庵原（いはら）川でできる小さな自然再生を考える座学研修 @横砂自治会館
 - 庵原川での石倉カゴ設置などエホナガキの生育環境保全活動の取組紹介（伏見直樹：いはらの川再生PJ会）
 - 小さな自然再生の方法と効果-今までの研究から分かった幾つかのこと-（齋藤祐一：名古屋工業大学社会工学科環境都市分野）
 - 市民主導の川づくりが生み出す地域創出（坂本貴章：金沢大学人間社会研究地域創出学系）
 - 庵原川でできることを考える（意見交換会）

(16:30) 閉会

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：いはらの川再生PJ会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
 協力：静岡県静岡土木事務所、東海大学海洋学部水環境研究会、横砂自治会、静岡市環境局環境共生課、公益財団法人リバーフロント研究所

第28回 静岡県富士宮市・芝川
「小さな自然再生」現地研修会
 ～ 「環境教育プログラムとしての小さな自然再生」を体験してみよう！～

開催日 令和7年10月21日(火) 10:00～17:00 (9:30～受付開始)

会場 静岡県富士宮市下植野165＜座学：ホールアース自然学校 富士山本校 / 現地：芝川＞

対象 芝川での保全活動や体験活動に興味・関心のある方々（※未経験者でもOKです）

定員 30名（先着順）

参加費 無料

持ち物 雨具、靴、作業用手袋、昼食

プログラム

※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。
 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

【開催趣旨】 富士山の湧水を起源とする清流・芝川。今もその豊かさが残る一方で、いきもののすみかの喪失や市民の川に親しむ機会の減少といった課題が見えてきています。今回の研修会では、小さな自然再生活動を通じた水辺の生態系保全と共に、その活動の中に見い出せるさまざまな環境教育プログラムを試行します。垣根を超えたさまざまな分野の皆さんと共に、知恵やアイデアを出し合いながら、芝川のためにできること・芝川でできること、を考えたいと思います。

★分野が異なる方々も大歓迎です！様々な立場の方で集まり、芝川の今後の可能性を考えましょう！

※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。

(10:00～10:50) 座学研修 @森の家 講義室
 - 芝川における自然体験活動の紹介と今後の展望（松尾 章史：NPO法人ホールアース自然学校）
 - 芝川の魚類や水生昆虫のプラスチックごみ対策（三橋 弘弘：兵庫県立人と自然の博物館・ひとが）

(11:00～16:00) 小さな自然再生と水辺の環境教育の実践 @芝川
 - パーティーで寄り添い、魚の隠れ家づくり実践・解説
 - 環境教育プログラム実践
 寄り添いながら水が綺麗になる～川の砂を使ったり過実～
 水生昆虫を飼って、生分解資材だけでフィッシング（半もデスも計も生分解資材）
 ※現地技術指導：三橋弘弘（同上）、白尾 薫宏（公益財団法人リバーフロント研究所）
 ※途中で、昼食・休憩・交流・移動の時間を設けます

(16:30～17:00) 本日のプログラムの振り返り @森の家 講義室

(17:00) 閉会

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：NPO法人ホールアース自然学校、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
 協力：芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会、公益財団法人リバーフロント研究所

お知らせ② ～ 小さな自然再生のイベント紹介～

**第30回 福井県三方上中郡若狭町・はす川等
「小さな自然再生」現地研修会**

～ 小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善～

開催日
令和7年**11月3日**（月・祝）

参加者募集

【開催趣旨】 三方五湖自然再生協議会（自然護岸再生部会）では、はす川等の三方五湖周辺河川での自然再生に向けて、小さな自然再生を活用した多様な水辺環境の創出や、サケやアユをはじめとする魚類の遡上環境の改善などを打ち出しています。今回の研修会では、「そもそも小さな自然再生とはどんな取り組みなのか？」を知るとともに、はす川流域において地域で小さな自然再生を進めていくためのアイデアやヒントを、現地も巡りながら参加者とともに学び合います。

開催日時 令和7年11月3日（月・祝） 9:30～16:30（9:00～受付開始）

会場 福井県三方上中郡若狭町＜座学：リブラ若狭 / 現地：はす川、串小川＞

対象 小さな自然再生に興味・関心のある方々

定員 50名（先着順）

参加費 無料

持ち物 雨具（少雨決行）、昼食

プログラム ※プログラム及び雨天時の一部変更の可能性もあります。※主催名義で行事保険に加入いたします。

（9:30～10:30）開会およびはす川流域を知る @リブラ若狭

- 開会挨拶（吉田丈人：東京大学 大学院農学生命科学研究科）
- 三方五湖自然再生協議会 自然護岸再生部会の取組みと小さな自然再生への考え方（小林晃平：福井県自然環境課）
- はす川の特徴、地域資源としての価値（吉田丈人：東京大学、小林晃平：福井県）

（10:30～13:00）はす川流域を巡る @はす川、串小川

はす川の各合流及び支川・串小川に設置されている落着工等を観察し、生き物の視点から自然環境や課題等を学びます。

■現地指導講師：田原大輔（福井県立大学 海洋生物資源学部）、岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

（13:00～14:00）昼食

（14:00～16:30）はす川流域でできる小さな自然再生を考える座学研修 @リブラ若狭

- サケの生態、はす川流域や三方五湖周辺の遡上状況（田原大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部）、（柘植幸実：福井県海浜自然センター）
- できることから始めよう～水辺の小さな自然再生～（和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）
- はす川流域でできることを考える（ミニワークショップ）

（16:30）閉会

 **公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。**

主催： 三方五湖自然再生協議会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力： 福井県、若狭町、日本野鳥の会福井県、三方五湖ラムサールクラブ、公益財団法人リバーフロント研究所

**2025年
12月7日(日)
京都大学宇治キャンパス**

**第2回 小さな自然再生サミット
2025 京都大会**

12/6(土) サイドイベント ※事前申込制

- 小さな自然再生研修会 in 犬上川
13:00 南彦根駅(JR琵琶湖線) 集合
13:00-16:30 座学+現地研修会
- 懇親会
18:00-20:00 @京都駅周辺

12/7(日) サミット @京都大学宇治キャンパス

【参加費】無料 【定員】300名(先着申込順)

10:00 サミット開会
10:10-12:30 全国事例発表
12:30-13:30 昼食&ポスター交流
13:30-16:00 パネルディスカッション
16:00-17:00 茶話会
17:00 サミット閉会

【主催】 小さな自然再生サミット実行委員会
【後援】 国土交通省、環境省、公益財団法人リバーフロント研究所 ※申請手続中
【協賛】 ※調整中



サミット案内ページ

土木学会CPD認定プログラム
(4単位 Ⅱ X-X Ⅱ Ⅱ)

ありがとうございました

**多自然川づくり
サポート**

<担当：内藤太輔>

**かわまちづくり
サポート**

<担当：阿部充>

リバフロサポートセンター

**河川環境管理シート
サポート**

<担当：白尾豪宏>

**小さな自然再生
サポート**

<担当：和田彰>

リバフロサポートセンターの相談窓口へお気軽にお問合せください